

6. むすび

地震調査研究推進本部の「今後の重点的調査観測について（－活断層で発生する地震及び海溝型地震を対象とした重点的調査観測、活断層の今後の基盤的調査観測の進め方－）」（平成17年8月策定）に基づき、活断層帯の重点的な調査観測の推進として、平成26年度より「別府－万年山断層帯（大分平野－由布院断層帯東部）の重点調査観測」を3カ年計画で実施した。

具体的には、活断層の活動区間を正確に把握するための詳細位置・形状等の調査及び断層活動履歴や平均変位速度の解明のための調査観測、断層帯の三次元的形状・断層帯周辺の地殻構造解明のための調査観測、断層帯周辺における強震動予測の高度化のための研究を行うサブテーマ研究チームを構成し、各々の調査観測研究を進めるとともに、サブテーマ間での情報共有を進めながら、地震規模及び長期的な発生時期の予測精度の高度化、断層帯周辺における地殻活動の現状把握の高度化、及び強震動の予測精度の高度化を目的としていた。

対象断層帯においては、地震調査委員会や大分県による活断層の長期評価や強震動評価のための周辺地域の地下構造モデルが構築されており、これらの情報を踏まえた効果的な調査観測研究の進展が必要とされた。平成26年度から平成28年度までの3年間で各研究テーマにおける既往研究の情報整理に基づいて調査観測研究を計画・実行し、本報告書をまとめあげることができた。この間、各サブテーマがあげた課題を解決するとともに、サブテーマ間での成果の情報共有をすすめて、各サブテーマでの調査観測研究に活用していくことができた。また、各サブテーマの最終目標を見据えた調査観測研究を実施する業務計画や体制のもとに、調査観測研究の進展を図ることができた。

本観測調査を遂行する過程で、2016年度熊本・大分地震が発生し、内陸活断層の活動による地震の破壊力をまざまざと感じさせられた。本対象断層帯においても、直下型の地震が多発している現状であり、本重点観測研究の成果を生かしていく責務を感じている。この熊本地震時の観測データや種々の研究報告も本調査観測に重要な知見をもたらし、今後の内陸活断層と地震の研究・調査観測がさらに進展することが望まれる。

最後になりましたが、本重点調査観測を行うにあたり、調査対象地域である大分県、大分市、別府市と大分地方気象台など関連機関の皆様、ボーリング調査および現地観測調査に協力いただいた皆様に記してお礼申し上げます。